9.11テロ遺族の心 絵本で癒やしたい

「千の風」テーマ、福知山出身版画家

支援の財団へ50冊贈る

ヒット曲「千の風になって」を生んだ故郷の風土に基づいて福知山市出身の仏像版画家が絵本を出版、十一日に行われる米中枢同時テロの追悼式にあわせて、遺族を支援するニューヨークの財団に五十冊を贈る。「絵で、遺族の心を少しでも癒やして慰めたい」と話している。

「絵本作製に全力を注いだ」と話す版画家さんーさと、妻の[illegible]さん（兵庫県福知山市内、アトリエ[illegible]）

仏像版画家は、[illegible]さん（六二）＝本名・金子泰輝、兵庫県丹波市＝。原詩は百五十年ほど前にうたわれたとされ、作家木村[illegible]、二〇〇一年九月十一日のテロを受けた追悼式で少女が朗読、日本では[illegible]新井満さんが訳をつけ、歌手秋川雅史さんが歌い有名になった。

朗読をテレビで見た東京都の出版社の[illegible]さんが訳、[illegible]神し、京都・東寺その民[illegible]会などで絵を受けていた版画家さんに絵を依頼。版画家さんは昨年末から半年かけて、計十二枚を仕上げた。

始まりの「わたしのお墓にたたずんでなかないで」の部分は、少年が花を手に大地に立ち、正面を見つめる構図。千の風は、いくつもの絵で表した。「原詩の雰囲気を生かすため、シンプルな絵をえがけた」といい、和紙の裏から背景の黄で色をつける手法で、やさしい風合いにした。

絵に添えた詩は、共同制作のパートナーで、がんで夫を失った福知山出身の[illegible]さん（六二）＝本名・[illegible]子、兵庫県丹波市＝が担当。「永遠の[illegible]歌を一字ずつ丁寧に書いた」という。

[illegible]さんは八日、ニューヨークを訪れ、遺族を支援の財団「Tuesday's Child」の代表に手渡す。版画家さんは「詩に思いをはせ、芸術家としての最大成のつもりで取った」とくなった後も、風の鳥、雨となり見守っているとのメッセージが、絵とともに遺族に届いてほしい」と期待する。

絵本「版画家の千の風に」は、オークラ出版から二千百円（税込み）で販売している。

京都新聞　2007年9月6日（木）